

北陸農政局管内の土地改良団体における女性活躍事例

なんとし

南砺市土地改良区

所在地：富山県南砺市

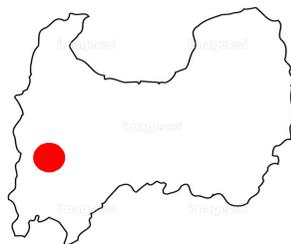
地区面積：7,285ha

組合員数：6,673名

理事数：27人（うち女性1人）

監事数：4人（うち女性－）

職員数：13人（うち女性6人）



南砺市は、富山県南西部にある市。散居村で有名な砺波平野の南部と、世界遺産の相倉・菅沼合掌造り集落を有する五箇山からなる。

令和4年2月に、南砺市内の5土地改良区（福野町土地改良区、城端土地改良区、井口村土地改良区、井波町土地改良区、福光町土地改良区）が合併し、発足。

合併を契機として、土地改良区の運営に多様な意見を反映させるため、女性理事を登用。

【女性理事登用の背景】

合併を契機として、土地改良区の運営に関して多様な意見を反映させるため、地区選出枠とは別に全域枠（学識経験者枠）を設け、理事を登用することとし人選を行っていたところ、県から、男女共同参画の観点から、農業分野に知見を持った女性を登用してはどうかとの助言を受け、女性理事登用に至ったもの。

すぎもり けいこ

杉森 桂子さん

南砺市土地改良区 理事



- 令和4年4月に理事就任。現在1期目。
- 南砺市井波地区において、米、里芋などの生産を行っている。
- 農協理事や農業委員など、農業関係団体の役職を歴任。
- NPO法人グリーンツーリズムとやま理事、とやま帰農塾南砺塾塾長を務めるなど、都市農村交流やグリーンツーリズムの推進に取り組んでいる。

○理事就任の経緯は？

- 南砺市土地改良区が発足する際、土地改良区の運営に多様な意見を取り入れるため、女性理事を登用することとなり、農協理事や農業委員を経験し、農業分野に関する知識を持っていた私に声がかかった。
- 農協理事や農業委員の経験があったため、土地改良区理事のオファーがあった時も抵抗はなかった。
- 夫が土地改良区の総代を務めていたこともあり、土地改良事業に関してある程度理解はしていた。

○実際に理事をやってみて感じたことは？

- 農協理事や農業委員の経験が役に立っていると感じる。土地改良区の役員には顔見知りが多かったため違和感なく溶け込むことができた。
- 理事に就任したばかりで土地改良区で取り組みたいことのイメージはまだ沸いていないが、持っている知識を活かせるような取り組みを行っていきたい。

○女性理事登用に向けたアドバイスを！

- 土地改良事業実施の際、理事は地元調整役となるため、土地改良事業の仕組みを理解しておく必要がある。理事として活躍するためには、土地改良に関する知識が必要不可欠。そのためには、勉強会や研修会等を開催するなど周囲のフォローアップが必要。
- 農協理事、農業委員を経験し、農業分野に関する知識を養ってから土地改良区の理事に就任する形がいいのでは。
- 女性も自ら勉強し、自分の仕事はしっかりこなすことが重要。

女性理事登用について、^{じょうづか}定司理事長にお聞きしました

- 女性理事登用に際しては、地区選出枠では女性の選出は困難であるため、全域枠（学識経験者枠）を設けることが有効だと考えている。
- 最近土地持ち非農家が増えており、土地改良区と農業者のつながりが希薄になっていると感じるため、女性理事登用に関しては、女性農業者を理事に登用することが望ましいと考えているが、候補者の掘り起こしに苦勞する。農協、農業委員会や地域の女性農業者とのつながりを持つことが大切である。
- とやま水土里ネット女性の会を活用し、女性農業者のネットワークを作った上で、女性理事候補者の掘り起こしを行うことが有効と考える。
- 女性が、土地改良区理事のオファーがあった時に抵抗を感じないための環境づくりが必要である。

